

市民活動の活性化・広域化に期待を寄せて  
地域委員会連絡会



安井会長(右)と速水弘子副会長

6月1日、本年度第1回目となる地域委員会連絡会が開催されました。地域委員会連絡会は、各町地域委員会の代表者2名、有識者2名(合計14名)の委員で構成されています。地域委員会が町単位で行われる市民活動への審議を行うのに対し、連絡会では、2町以上にわたるまちづくりグループ、NPO法人が企画する市民活動に対し

る地域振興補助金の交付審査や、地域委員会間の連絡・調整及び各町で行われている市民活動についての意見交換などを行います。

この日の会議では、委員への委嘱状交付や正副会長の選出が行われました。会長に就任した安井誉さん(再任)は、前任期間を「市民活動の推進に向け、礎を築いた2年間だった」と振り返り、「本年度からは各地で活動の本格化が予想されるため、連絡会としても真価の問われる重要な2年間となる。気持ちを新たにまい進したい」とあいさつされました。

これまで育てられてきた市民活動の芽が、成長・開花することが期待されます。

雲南地域の医療の充実に向けて  
シンポジウム開催

6月2日、「第2回雲南の地域医療を考えるシンポジウム」がチエリヴァホールで開催され、参加者が医師不足などの医療課題について話し合いました。

浜田市国民健康保険弥栄診療所長の阿部顕治氏は基調講演で、浜田市の実践として、医師と行政が一体となって、中山間地域の医療に取り組んだことや病気がかかってからの対応よりも、日ごろの予防に力を入れていることを紹介。「都市部の病院や地元の開業医と連携しながら、それぞれが役割を果たすことが重要」と話されました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、様々な立場の代表者が集まり、今後の課題解決に向けた方策を議論しました。住民の立場で参加の景山純孝さんは、自身の体験を踏まえながら「近くに雲南病院(総合病院)があることで、安心・安全な生活を実感できた。厳しい状況であるが、なんとか以前のような体制を取り戻し、より充実した医療環境を整備してほしい」と発表されました。

一般参加者からは「今日の話聞いて、状況や問題点がわかった。みんなで地域の医療を支えていくため、こうしたシンポジウムを定期的で開催してほしい」との意見が寄せられました。



# 雲南ニュース

6月6日、出雲空港を利用して東京・出雲間を行き来する乗客に、奥出雲薔薇園のバラをプレゼントし、同園を県内外にアピールしました。

今回のバラプレゼントは、出雲・東京線54万人達成記念キャンペーンの一



新たな観光資源として  
薔薇のプレゼント

環として行われ、雲南市は地元や東京に向けての市の情報発信を目的に取り組みました。9時40分に東京からの到着便利利用者と10時30分に東京に向かう出発の便利利用者に雲南市及び奥出雲薔薇園のパンフレットとともに香りの薔薇「さ姫」をプレゼントしました。

この日は、離島の際に出雲空港にいわせ元宝塚歌劇団の鳳蘭さんに飛び入りでプレゼントに加わっていただきました。バラを手渡された人は驚きながらも、突然の出来事を歓迎していました。

和やかな雰囲気の中、薔薇は、さ姫の甘い香りに包まれていました。



5月18日、奥出雲薔薇園を運営するフレグランス・ロゼの福岡厚社長(右)と速水市長はバラを増産するための事業拡大に伴う覚書をかわしました

避難経路などを確認  
雲南市防災訓練

5月27日、木次町斐伊地区で雲南市防災訓練があり、梅雨の雨季を前に、災害時の情報伝達方法や、避難場所・避難経路などを確認しました。

避難訓練では、1時間に40mm以上の激しい雨が降り続き、「土砂災害危険度」がレベル4に達した状況を想定。午前8時50分に避難勧告が出されると、住民は近所同士声をかけあい、避難所までの安全な経路を確認しながら粛々と訓練を行いました。

避難訓練終了後、斐伊地域防災会議が開催され、「より安全な避難体制の確立」や「素早く危険を察知し避難を



促す地域リーダーの育成」について話し合われました。

災害発生時は住民の持つ土地感が危険回避に大きく役立つと。有事の際の有効な備えとして、地域における自主的な取り組みを強化したいものです。



雲南消防本部による救助訓練の実演も行われました